

会議録

会議の名称	令和5年度 第1回座間市学校施設適正化方針検討委員会		
開催日時	令和5年 5月 8日(月) 午後2時00分～午後3時45分		
開催場所	市役所5階 5-4会議室		
出席者	山森委員長、天野副委員長、松尾委員、小宮委員、牧野委員、窪委員、河野委員、川畑委員、木島教育長		
事務局	安藤教育部長、高木教育総務課長、野澤就学支援課長、東保健給食担当課長、下斗米教育指導課長、石田教育研究所長、清水学校施設係長		
会議の公開可否	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開	傍聴者数	0人
非公開又は一部公開とした理由	—		
議題	1 会議の公開について 2 座間市学校施設適正化方針と検討内容について		
資料の名称	資料1 座間市学校施設適正化方針検討委員会設置要綱 資料2 座間市学校施設適正化方針検討委員会名簿 資料3 座間市学校施設適正化方針検討委員会の公開について(案) 資料4 座間市立小・中学校の現況(概要) 資料5 座間市学校施設適正化方針策定指針 資料6 検討委員会開催スケジュール(予定) 参考資料1 令和4年度座間市立小・中学校の教育環境に関するアンケート 概要版 参考資料2 座間市教育大綱 参考資料3 豊かな心を育むひまわりプラン 参考資料4 国の答申・報告等の概要 参考資料5 府中市立学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方 参考資料6 小諸市学校教育審議会答申資料		

議事の詳細

(○委員の発言、●事務局の発言)

- ・開会にあたり、教育長から挨拶
- ・出席者より、自己紹介
- ・事務局の紹介
- ・委員長に選出された山森委員、副委員長に指名された天野委員から挨拶

議題1 会議の公開について

- ・事務局から資料3に基づき、委員会の公開について説明
- ・反対意見は無く、本委員会は公開と決定

議題2 座間市学校施設適正化方針と検討内容について

- ・事務局から資料4～6に基づき、詳細な内容の説明

○屋上防水は10年、外壁は15年ということを見ると、40年という長いスパンではなく、細かいピッチで手を入れないと建物は老朽化する。平成12年には、建築基準法の構造関係基準の改正も行われており、新耐震基準で建設されたということだけでなく、建物状況の把握をしっかりとした方が良い。

○何を優先していくかを念頭に検討することが重要。老朽化した施設を新しくすることが重要と思うが、今後の教育環境の変化や特別支援教室の増加といったことも重要視されていくと感じた。また、コミュニティスクールの導入もあり、地域と共にある学校、学校を主体とした地域づくりが広がり、複合化といったことも考えられると思った。

○学校施設は建築年次が古く、現在のICT化や特別支援学級、国際学級といったことは想定されていない。現在の教育環境を踏まえ、例えば日本語指導を行うハブになる学校を作るのかなど、今後の計画を考えていく必要がある。

○コスト面について、全校を維持するためには、3.2倍の乖離があるという説明だった。この財政制約を上げることはできないのか。

●財政制約は、平成25年から平成29年までの施設関連経費の平均に座間中学校1号棟の改築費を加えたものであり、目安として示している。

○資料 5 に中長期的な学校施設の適正化とあるが、この中長期は具体的にどのくらいの期間を想定しているか。

●児童生徒数の推計を 40 年後まで示しており、中長期は 10 年後から 40 年後という認識で議論いただきたい。

○資料 4 の 4 ページの人口推計は、市の都市計画や基地返還などの不確定な要素を含めているのか。

○大規模な土地利用の変更や基地の返還などは想像できず、検討に含めることは難しいと思われる。

○限られた経費の中で優先順位を決めて改修工事を行っていかなければならない。資料 4 にあるように、1 学年平均は 33.7 人から 27.6 人まで、現在でも 5 人程度の違いがある。統廃合の機会にある程度平均化する方法もあると思うが、地域性をよく考えて、大規模校と小規模校になるかもしれないが、地域の間人関係なども加味しながら統廃合を行うことになると思う。学校が統廃合されるのは大問題かもしれないが、将来的に避けて通れないと思う。統廃合について基本的な考えを皆が理解し、多くの人々が納得する基本路線を考えることが大事である。

○資料 4 の 5 ページ、特別支援学級の増加に驚いた。今後、普通学級と同じように通っていくのであれば、在り方もしっかりと考えなければいけない。また、同資料の 2 ページでは、地図で見ると本当に近い学校があると実感した。

統廃合をして出身の学校がなくなることはショックだと思うが、昔の物を残しながら地域を巻き込んで変わっていけば、子どもたちにとっても良い環境を作れるのではないか。

○資料 4 の 7 ページ、1 校当たり 5.2 億円、1 学級当たり 3,000 万円程度とある。日本の義務教育の公財政支出は 1 人当たり約 100 万円程度なので、全国平均と同程度。資料 6 では、維持更新コストが年平均で 30 億円かかっているが、このコストは、5.2 億円に上乗せされるのか。

●含めた試算結果である。

○掛かっているコストとしては思っているより高くは無いが、実際問題としては厳しい

のだろう。統廃合の問題はあるが、どこまで踏み込むかは今後の議論次第。学校施設の適正化に統廃合は当然含まれるが、大変な問題であり、慎重にやらないといけない。学校建築は割と自由なので、改築の際に楽しそうと思えるような新しい学校ができると良い。

○学校施設は大きい土地があり、やりたいことを出来る可能性がある。学校を使う人、それは先生、生徒・児童、地域の場合などあるが、その人たちの意見を聞かないと良い学校は作れないと思う。

○子どもを見てもらえる地域の方が学校に入り、学校にあるものを地域に提供できるようなWin-Winの関係が築ければ良いと感じた。一方、セキュリティ面など、気を付けなければいけないことも多い。

○ハードは地域が管理をして、先生は子供の管理、安全確保、教育に注力できる環境が作れないか。

○責任が伴う仕事をボランティア頼みでは厳しくなると思うが、セキュリティ面がクリアできれば良いと思うし、色々な人的資源、物的資源を共有できる部分を作っていくのが良いのではないか。昔のように学校の教室数は学級数と同じというわけにはいかず、個別最適化の指導や支援、特別支援学級、応接室なども求められる状況である。

○事務局に確認したいが、本委員会では、どこまで何をするのか。また、先ほど中長期は10年から40年という話があったが、40年先はどうなっているか見当がつかず結論が出ない。もう少し短くして着地点を考えないと、広く考えるだけで終わってしまうのではないか。

●資料5でお知らせしたように論点整理をある程度した上で、教育委員会に出すための素案を作るということを着地点としていただきたい。中長期が長いのではないかということだが、計画ではなくて方針であるので、現状で議論いただきたい。

○当委員会では、資料5にあるように将来を見据えた学校の適正規模、適正配置、望ましい学習環境や目指す姿についての基本的な考え方を整理するための素案を作ることの良いと考える。視点として、学級数、施設整備、学習環境があり、プールや給食室は喫緊の課題としてある程度議論していき、上位計画である「教育大綱」「ひまわりプラン」を踏まえ望ましい学習環境を検討する。

○小松原は、相模野小学校から一番遠く、通学距離が2.2kmある。往復4km、1週間で20km、月にすれば100kmにもなる。統廃合をすると、こういう子どもが増えると思うが、それを補完することも考えて欲しいという意見も出ると思う。簡単な問題ではないのは分かっているが、自分たちの子どもはどのように通学するのか、座間で長く住むのであれば、自分の子どもが産まれた次の親がどうするのか、というビジョンが必要だと思う。

○義務教育が始まる年齢は、国際的に5～7歳だが、認知能力というより一定程度の距離を1人で歩ける年齢ということで始めるケースが多いようで、「歩ける」というのがポイントだと思う。

○学校と地域を考えたとき、建物の管理を地域でという話もあったが、長期的に考えると、ボランティアだけでは難しいと思う。学校運営協議会は、制度が始まって2年目であるが、学校の行事等に地域の人に関わることを通して地域の活性化や繋がりが出来ているところもある。地域が持っている力や地域と学校の関わり、人の交流など、5年程度で見えてくるのではないか。そのようなものを反映できると良い。

○保護者として学校を見るが多かったが、先生の職場として考えると、少し手直しをして先生がほっとできる場があると良い。先生たちが生き生きしていれば、子どもたちにも良い影響があるのではないかと思う。

○職場としての学校も大事な視点である。職員室の机は小さく、狭い状況で知的な労働をする環境と言えない。それと、学校には、応接、ロビー、ラウンジといった場所がない。来客は校長室へという形になってしまっている。先生の休憩スペースもない。色々な作業をする教室の机とご飯を食べる机が一緒というのは、衛生的にどうなのだろうか。ここで夢の学校が全て出来るとは思わないが、素案には夢のある話を盛り込みたい。

●再編や今後のあり方を考える際、行政サイドだけで考えると多様な視点に欠けると考え、このような委員会を設けた。全市的な視点も加味しつつ、それぞれの経験を活かし、子どもの学習環境が良くなるよう議論いただきたい。

○50年前の想定を超えて今があり、40年後までの未来を見据えて議論していかないといけないということが今回の共通理解だと考える。